

1 活動内容（アピールしたい点など）について

（1）花づくりなどによる美化活動団体の参加者より

- ・ 花植えをおこなっている。花いっぱい運動から今まで26年くらい行っているが、なかなか続けていくのは大変で、思い通りにならないことがたくさんあり、乗り越えていけないといけないと思っている。
- ・ 熊野古道で花植えをしている。延長3キロにわたり、花壇が約70箇所、約150名のボランティアで、毎年2回植え替えをおこなっている。
- ・ 観光資源がたくさんある観光の町にもかかわらず、ゴミ等が捨てられ、きれいとはいえない状態であったため、行政を頼るのではなく、民間でなんとかしようということで立ち上がった。今は県と協定を結んで、まちをきれいにするため、年に6回、四季折々の花植えや草刈りをおこなっている。

（2）熊野古道を中心とした活動団体の参加者より

- ・ 熊野古道の語り部を南部町から本宮大社までをエリアとして活動しているが、観光客が減っているので、増やす方法がないか考えている。
- ・ 熊野古道世界遺産登録を契機で結成した団体で、植樹活動、川の舟渡、ほたるの里づくりなどの活動を行っている。世界遺産登録後、来訪者は増えているが、古道しか歩いていない状況であるため、古道とまちなかをつなぐことを目指して活動に取り組んでいる。
- ・ 東紀州地域をよく知ってもらう活動をしている。熊野古道が世界遺産に登録され、ある程度認知度は高まったので、現在は誘客活動および熊野古道の保全活動、語り部の養成・研修の支援を行っている。保全活動を行うにあたっては、自立まではいかないが、企業から寄付をいただいている。また、企業の社会貢献というかたちで、企業が地域に入ってきてくれている。

（3）川舟等を活用とした地域づくり活動団体の参加者より

- ・ 川舟くだり（約16キロ）をおこなっている。年間5千人の利用客があるが、豊かな自然を満喫していただくため、ゴミ拾い、流域の植栽・花植え、また、年1回道の駅を中心としたオープンカフェなどを実施している。
- ・ 地域の有志で立ち上げた任意の団体で川舟の運行をおこなっているが、地域の多くの皆さんが楽しみながらお客さんに関わっていけるような団体を目指している。ほんまものを提供することによって、リピーターを増やしていきたいと考えている。
- ・ 大阪へのベットタウン化で空洞化している町を歴史文化的遺産を活用したまちづくりをおこなっている。現在はまちづくりをメインに行っているが、今後、県内のいろいろな団体とネットワークづくりを進めていこうと考えている。

2 活動していく上での課題について

（1）活動への参加者の確保について

- ・ 花植えには参加者はたくさん来てくれるが、草刈りは大変なので、女性の参加者が少ない。活動をはじめて、最初の頃は何人参加してくれるか、大変気になったが、最近は参加者は何人でもいいと思うようにしている。一人でも地道にできることをやっていけば、一人増え、二人増えと会員はふえていく。
- ・ 一人でゴミ拾いするには勇気がいるが、一度やると平気になってくる。
- ・ 行政との協働は近道だが、行政に頼ってはいけない。

（2）活動資金について

- ・ 活動を継続していくためには、少しでも収益を上げながら、運営していける組織づくりが必要ではないか。ビジネスを取り入れることも必要である。
- ・ 長く活動をしていくと、いろいろと助言してくれる人が出てくる。また、行政も援助してくれる。

（3）語り部の育成について

- ・ 語り部の年齢が70歳代が多くなって、世代交代が進まない。
- ・ 語り部募集の新聞広告を出して集まったことがある。
- ・ 同じ話では観光客が満足しないので、新しい語り部の参画が必要。



討議の様子



発表者 熊野古道花街道 山本氏（日本風景街道 紀伊半島三県交流会）

日本風景街道三県交流会 第2班グループ討議の主な内容

1 活動内容（アピールしたい点など）について

（1）まちづくりに関する活動団体の参加者より

- ・ 昔あった名産（たとえば椿餅）を復活して地域おこしをしようとしている。
- ・ 伊勢街道を通じて地域活性化を図るためにパンフレットづくりをしている。
今年は交流フォーラムを開催し、お互いの活動報告をすることにより、刺激になればと考えている。
- ・ 町を元気にする活動をしている。
みんなが集まりやすいように、駅前の空き店舗を事務所にし、いろいろなアイデアを出しあっている。例えば、駅前に案内看板を立てたり、ろうそくによるライトアップなど、できる人ができる範囲でできることをしている。
- ・ 寂れてきた地域をなんとかしようと立ち上がった。
きっかけは国土交通省の半島らしい産業くらし調査で平成20年度採択されたことである。主な内容は、昔、漁具として使われていたビン玉（ガラス玉）の再利用とまちなかコンサート等である。

（2）花づくりなどによる美化活動団体の参加者より

- ・ 花を中心に活動している。四季折々の花を植えている
- ・ 熊野古道の草刈りなどをして古道を守り、整備して、地元の人たちに歩いてもらう活動をしている。
- ・ 道路の美化とまちの緑化を目指して取り組んでいる。
町の入り口であるくじらのモニュメント付近の国道42号沿いに花を植えたり、道路沿いに設置しているベンチの周辺に木を植え、憩いの場としている。

（3）熊野古道を中心とした活動団体の参加者より

- ・ 熊野古道が世界遺産に登録されて5年が経過し、外国人観光客も増加しているので、英語等の外国語でガイドできる語り部を養成している。
- ・ 熊野古道の一部が石畳となり、それを活用してイベントを開催している。なかなか思いどおりにいかないが、地道に細く長くやっていきたい。
- ・ 外国人観光客が一人でも安心して観光できるよう、案内板を整備している。
- ・ 地元の人が地元のことを知って誇りを持つ、このエネルギーがまちづくりにつながる。今年は熊野古道が世界遺産に登録されて5年となるので、1年を通じて中辺路完歩ウォークをシリーズで企画する。

2 活動していく上での課題や三県でできたらいいなと思うことについて

（1）活動資金について

- ・ 現在、活動資金は会員が持ち出している。他の団体はどうしているのだろうと思う。活動しているうちに、県や国からこんな助成金がありますよなどと声がかかるようになる。このとき、団体として対応できるようにしておく必要がある。
- ・ 国交省等の事業を研究して、県と連携をとりながら、こまめに応募していくことが大切である。
- ・ 民間団体が補助金を申請するときは、不慣れな面があり、面倒くさくなってあきらめてしまう。

- ・ 行政に協力してもらうことで、うまくいくことがある。
- ・ 行政になんでもかんでもやってもらうのではなく、役割分担を明確にする必要がある。

（2）道の駅との連携について

- ・ 道の駅で物産販売しているだけでなく、道の駅と風景街道をリンクさせて、参画団体の活動内容を情報発信すべき。

（3）情報発信について

- ・ 紀伊半島全体で風景街道に関する情報を一元的に発信できるよう、統一的なパンフレットを作ってはどうか。



討議の様子



発表者 椿区 長野氏（日本風景街道委員）

1 活動内容について

(1) まちづくりに関する活動団体の参加者より

- ・ 海岸沿いを中心にクリーン作戦や県外の人を交えて意見交換会を行い、地元の人から見た良いところ、都会の人から見た熊野のメリット、デメリットを含めて意見交換を行った。また、シーカヤックを使い、海から見た熊野の素晴らしさを見て頂ける様なコース作りを今研究中である。
- ・ オープンカフェを年に1度（今年度で3回目）行っている。休耕田をかり、米作り、野菜作りを行ない、その収益を活動資金として活動を行っている。その他に、休耕田に睡蓮と花菖蒲を植えて皆さんに見てもらう取組を行っている。
- ・ 地元の歴史を勉強し（いろんな事件、物語がたくさんある）、親とか祖父母の時代までは語り継がれてきたことが、今はほとんど消えてきている。これを今勉強している。
- ・ 各地で行われているイベントのデータを収集し、それをメンバーにHP等で情報を提供し、各地でがんばっている団体を応援していこう、交流を深めようということで活動している。
- ・ 三輪の駅前に看板も設置しているが、その看板の真ん前に三輪座がある。この三輪座をもてなしの拠点（喫茶スペースにしようとかんがえている。）としていきたい。

(2) 花づくりなどによる美化活動団体の参加者より

- ・ 今までは苗を買って花植えを行っていたが、現在は15坪のハウスを持ち、種から育てたものを使い、花植えを行っている。
- ・ 42号沿い約3kmの歩道の花壇に花植えを行っている。少しずつ参加者も増え、今までの成果が浸透してきたのかと思っている。

(3) 熊野古道を中心とした活動団体の参加者より

- ・ 熊野古道伊勢路の松本峠からはなすの窟までの区間でおもてなしの雰囲気づくりを進めている。
- ・ 「道はつながってこそ道だ」という合言葉のもとに活動している。
小さな子供たちに地元の古道のよさを知ってもらうという普及活動を行っている。

2 活動していく上での苦労している点、参考となる点、三県でできたらいいなと思うことについて

(1) 苦労している点について

- ・ 県境を越えて行政が連携をとるのがスムーズでない。
- ・ 行政で能動的な人材を適材部署に配置することが、大事である。
- ・ ルートハイキングやフィールドワークなどのまちあるきなどの活動は行っているが、中身がなかなか深まらない。内容をもう少しと深めていかなくてはいけない。
- ・ 郷土愛を育むことが非常に大切である。そのためには、子供の参加が欠かせないが、子供の参加のもって行き方が難しい。
- ・ 花を植えていくには助成を継続的に受けないと大変である。初期だけの補助では大変である。

(2) 参考となる点

- ・ 地域の郷土愛をはぐくむためには行政マン（市町村職員）が地域に入って一緒に活動し、その行政マンが県や国に繋げていくという役割の行政マンが大事である
- ・ ML（メーリングリスト）を充実させネットで情報（予算情報などの重要な情報）を広げることが大事ではないか。
行政のOBがよく手伝ってくれる。意外と行政のOBがキーマンになるのではないかと

(3) 三県でできたらいいなと思う点

- ・ 紀伊半島を繋げるということで、大阪も加えて紀伊半島を一周できるルート作りを考えてはどうか。
- ・ 同じ花が咲く時期に、三県同時にキャンペーンを行ってはどうか
- ・ 「富士山」という車のご当地ナンバーのように、「熊野」ナンバーを導入できないか。
- ・ 連携を深めるためにも他の風景街道団体にメール情報を流せないか。



討議の様子



発表者 三輪座 中尾氏（日本風景街道会代表）